

<御名にある権威を用いよ！>

「金は私にはない。しかし、私にあるものを上げよう。ナザレのイエス・キリストの名によって、歩きなさい。」

(使徒の働き3:6)

ペテロとヨハネは午後三時の祈りの時間に宮に上って行ったが、「美しの門」という名の宮の門には、生まれつき足のきかない男が、施しを求めるためにいた。宮に入ろうとするペテロとヨハネにも彼は施しを求めた。ペテロは、ヨハネとともに、その男を見つめ、「私たちを見なさい。」と言った。何かもらえと思った男がふたりに目を注いだとき、ペテロは「金は私にはない。しかし、私にあるものを上げよう。ナザレのイエス・キリストの名によって歩きなさい。」と言って、彼の右手を取って立たせた。するとたちまち、彼の足とくるぶしが強くなり、おどりがあってまっすぐに立ち歩きだした。

ペテロは、「自分にあるものを上げよう。」と語っていて、その権威は自分が用いているいいものであることを強く意識している。それは傲慢なことではなく、キリストの身体である者の意識である。イエス様は、「まことに、まことに、あなたが

たに告げます。わたしを信じる者は、わたしの行なうわざを行ない、またそれよりもさらに大きなわざを行ないます。わたしが父のもとに行くからです。」(ヨハネ14:12)と語られたが、それを文字通り、素直に受け取っている者によって現実に行われるものである。それはまた自分の功績でなく、主の御栄光現れるみわざ、全知全能の主しかできない力あるわざが現れ、神の国が拡大されることを望む者が等しく期待するものである。

それは、人間の知識と努力と熱意の宗教活動に、キリストへの信仰を閉じ込めてしまっているクリスチャンたちには受け入れられないものであるが、主とその御言葉に従う神の子にとっては、普通のことであり、喜びと希望と圧倒的な勝利をもたらすものである。

人々が驚いているのを見たペテロは、自分の力とか信仰深さとかによって彼を歩かせたのではなく、イエスの御名が、その御名を信じる信仰のゆえに、この人を完全なからだにしたと語った。神から与えられた信仰は、イエスの御名にある権威をこの地上で用いて神の国を拡大することができる。そのためにイエス様と

ともに、権威を行使する御座に座らされたのである(1^oコリ2:6)。権威の座に座られながら、悪魔とその配下を恐れ、嘆きながら信仰生活をしているクリスチャンを目にするのは実に悲しいことである。ペテロが語っていることは、キリストの身体を構成している全員が言える言葉である。なぜなら、主はいつさいのものの上に立つかしらであり、いつさいのものを足の下に従わせていて(1^oコリ1:22)、神の子はその身体だからである。又吉賢守

おしらせ

- ◎本日分級後事務集會が行われます。議題は7月会計、夏季キャンプ、他。
- ◎昨日の婦人集會において「神の怒りが下るこの世につけるもの」について学びました。
- ◎昨日の家庭集會はおやすみでした。
- ◎本日の午後花壇の植え替えを行います。
- ◎8月18日にバプテスト式が行われます。3名の祝福を祈りましょう。
- ◎8月18日、19日は夏季キャンプ。安全と祝福のために祈りましょう。

- ◎エレン師の回復のため◎怜也兄の準備のため◎バプテスト式のため◎夏季キャンプ祝福のため